

チャレンジ！！オープンガバナンス 2023 市民／学生応募用紙

自治体提示の地域課題名 (注1)	No.	自治体提示の地域課題名	自治体名
	- (事務局用)	高齢者や外国人など、情報弱者を無くしたい！！	大阪市東淀川区
チームがつけたアイデア名 (公開) (注2)	外国人食堂で情報弱者を無くそう！		

(注1) 地域課題名は、COG2023 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題名を記入してください。

(注2) アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。これは自治体提示の地域課題名とは別です。

1. 応募者情報 下の欄のうち赤字部分は削除して該当する番号を記入のこと

チーム名 (公開)	大阪成蹊大学 Public Management		
チーム属性 (公開)	1. 市民、2. 市民／学生混成、3. 学生	3	
メンバー数 (公開)	7名		
代表者 (公開)	谷渕 遥紀		
メンバー (公開)	山本 栞、小椋 恵太、村上 慎吾、軸屋 颯人、松下 晃大、筒井 奏太		

【注意書き】※ 必ず応募前にお読みください。

＜応募内容の公開＞

1. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
2. 公開条件について：
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY (表示) 4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC (表示—非営利) 4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。
(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)
3. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開いたしません)
4. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アトバイスの段階で相談の上公開することがあります。

＜知的所有権等の取扱い＞

5. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。
6. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

＜チームメンバー名簿＞

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。)

アイデアの説明が肖像権・著作権等を侵害していないことの確認

確認後 OK なら右に○印を記入⇒○

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

(1) アイデアの内容、(2) アイデアの理由、(3) 実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

必要に応じて説明の途中に図表を入れていただいて結構です。

(1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、対象とする課題解決のために、何をする社会的な活動（サービス）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、魅力的で新規性があり、実践したくなり、活用してみたいなる、そしてその結果として、課題が解決される、そんなわくわく感のあるアイデアを期待します。**2ページ以内**でご記入ください。

<応募チームとして解決したい課題のポイントはこれです！をごく短く以下に書いてください>

<解決したい課題のポイント>

外国人の情報格差を是正する

<以上の課題解決のために「何を」するアイデアか、それを「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するかをわかりやすく書いてください> <アイデアが具体的に実行される場面を想定してください。>

<よいアイデアを生むには関連データの分析確認とデザイン思考によるアイデアを使う人への共感が原点です>

誰が：東淀川区内で飲食店を経営する外国人

いつ：月4回（週1回）

どこで：東淀川区内にあるインド・ネパール料理店といった、外国人店主が営む既存の店舗

どのように：子ども食堂のビジネスモデルを応用した外国人食堂の展開によるコミュニティー拠点の具体化と自治体行政との直接的連携の拡大

この提案では東淀川区内にあるインドネパール料理店、台湾料理店といった、外国人店主が営む既存の店舗で外国人食堂を展開し、週一回（月4回）を目途に定期開催を行うことを考えています。

外国人の情報格差問題は何年もかけて解消するものではなく、早急に解決する必要があります。

在日外国人は年々増加しており、これは東淀川区だけでなく全国的に発生していることであり、一年遅れば数千人、数万人単位の外国人が日本人との格差が開いてしまいます。

南海トラフといった大規模地震の確率が年々増加している近年、日常生活だけでなく自然災害のことも考えながら対応しなくてはなりません。そのため、対応の迅速さが重要です。

今回提案する「外国人食堂」とは、単に低所得で日常生活に支障が出ている外国人に対して支援を行う施設ではないと考えています。

外国人間のコミュニティの確立・行政からの支援と把握・日本人との関係性など多くの関わりが密接に干渉しあうことで外国人支援という成果物が生まれます。

具体的な提案内容としては、東淀川区内にあるインドネパール料理店といった外国食を取り扱う既存の店舗を活用し、店を運営する外国人店主という一種の当事者を中心に置くことでスタートアップコスト・ラーニングコストを抑えつつ

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

も在日外国人が訪れやすい環境づくりを行いたいと考えています。
その中でも重要になってくるのが活動回数になると思いますが、月4回（週1回程度）が望ましいと考えています。
何故なら、今回参考とした子ども食堂は多くの場合、月1回～月4回の活動回数が多く見受けられたためです。子ども食堂は自治体といった行政組織から一定の補助金等を受け取っており、その補助金では月4回以下が現実的
なようです。そのため、今回提案する外国人食堂でも上記の活動回数を採用するに至りました。

(2) アイデアの理由（公開）

次にアイデアを提案する理由（なぜ）について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ 2ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

2. アイデアの説明（公開）

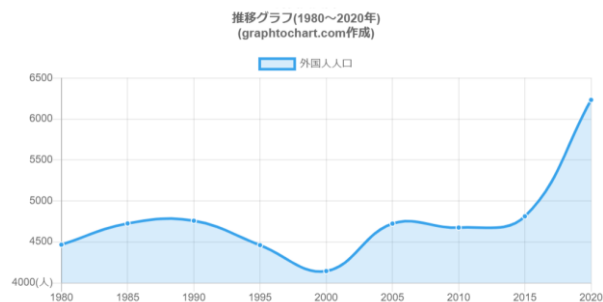
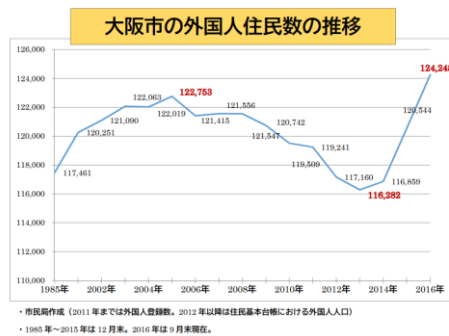
(2) アイデアの理由（公開）

<このアイデアを提案する理由（なぜ）を書いていきます>

<先の（1）で書いた「何を」「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するというアイデアの内容を支えるための、「なぜ」このアイデアがいいのか実現したいのかの理由を上記のデータを示しつつわかりやすく書いていきます>

東淀川区の課題として「外国人コミュニティ拠点を行政が把握しきれていない・外国人同士での情報格差が生まれている可能性」が挙げられます。

現在東淀川区では外国人コミュニティの拠点を把握できていない現状を職員から聞き、今後外国人の増加が見込まれる現状で、マイノリティーな存在であっても取り残してはいけないと考えた。そこでコミュニティの具体的な把握は今後必須となる項目であると予想できます。



現在、大阪府内や泉佐野市で行われている外国人食堂は数か月に1回や不定期でいつ・どこで開催されるのか知りたいときにすぐには知れない現状であり、大規模に行われるため「交流」にはなりますが、今回提案したい「支援」や「情報格差の是正」には一定の活動回数や日常の悩みや課題を気軽に共有できる仕組みや場所が必要だと考えました。

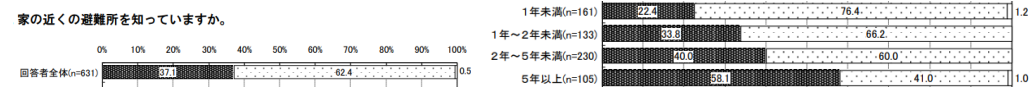
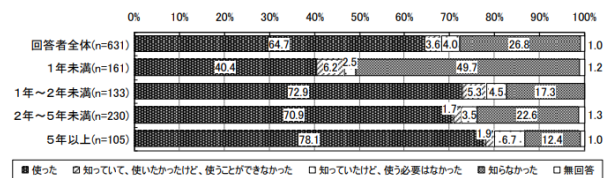


2. アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

その他、社会的によく言われている日本人と外国人の「情報格差」では無く、「外国人同士」の情報格差が近年大きくなっているのではないかと考えています。なぜなら、豊中市が実施した調査アンケートによると新型コロナウイルス流行時に実施された特別定額給付金を利用した在日1年未満の外国人の半数近くが「知らなかった」と回答。家の近くの避難所の認知度に関しては、5年以上在日していても半数近くが認知していない。単に在日して1年未満だから仕方ないではなく在日して日本での生活に不慣れであっても「ここに行けばわからないことを知ることができる」という居場所を作らなくてははいけない。

(1) 特別定額給付金



(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを実現する主体、アイデアの実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの実現にいたる時間軸を含むプロセス、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、アイデア実現までの大まかな流れについて、2ページ以内でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

<アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきまず>

<以下のように分けて書いていきます>

1. 実現する主体
2. 実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模とその現実的な調達方法
3. 実現にいたる時間軸を含むプロセス

1.実施する主体について

- ・インドネパール料理店といった外国人店主（既存店舗）
- ・自治体

2.実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模とその現実的な調達方法

- ・行政からの補助金

3.実現にいたる時間軸を含むプロセス

活動拠点の提供者の募集→子ども食堂の補助金制度を応用し行政間から一定額の補助金の申請→東淀川区へ外国人食堂の周知→通常営業の中で月に4回程度の外国人食堂としての活動開始